

# 石川県立美術館だより

平成14年8月1日発行 第226号



国宝 北野天神縁起(承久本) 京都・北野天満宮蔵

菅原道真公1100年祭記念

## 北野天満宮神宝展

7月27日(土)~ 8月18日(日) 会期中無休

### 目次

北野天満宮神宝展 .....	2	月例映画会 今月のイチ押し.....	6
近代の美術、石川の彫刻 .....	3	企画展示室、図書閲覧室NOW .....	6
常設展示室 主な展示作品.....	4	企画展TOPIC、八月の行事案内 他 .....	7
美術館小史・余話(25) ミュージウム・コンサート...5		所蔵品紹介、ミュージウムショップ通信 他...8	

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

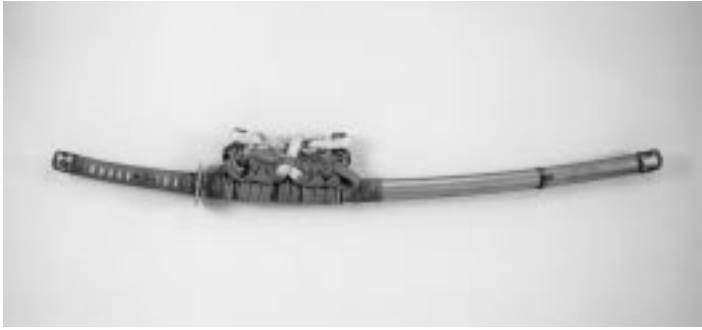
企画展示室(第7~9展示室)

菅原道真公1100年祭記念  
北野天満宮神宝展

7月27日(土)~8月18日(日)会期中無休

主催/北陸中日新聞・石川県立美術館・石川テレビ放送  
後援/石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会

協力/全国天満宮梅風会 協賛/東京海上  
特別協賛/北陸電力



重要文化財 太刀 銘恒次 附金梨地糸巻太刀拵 前田綱紀奉納

「天神さん」「天神さま」として、現在も親しまれる菅原道真(八四五~九〇三)。本年は道真が左遷先である九州・大宰府の地に没してから、ちょうど千百年にあたります。それを記念し、道真を祀る京都・北野天満宮が所蔵する神宝を紹介いたします。

道真は平安時代の優れた学者・政治家として、遣唐使の廃止を進言したことよく知られています。宇多天皇に重用され、道真は右大臣にまで昇進します。しかし、その出世を妬んだ左大臣・藤原時平の讒言により失脚。大宰府へ流され、そのまま失意と窮乏のうちに亡くなります。その没後、京都では天変地異や疫病が相次ぎ、皇族や時平一族に災難が続いたことから、これらが道真の怨霊として語られるようになります。そして、その怨霊を鎮めるために、天曆元年(九四七)、京都・北野の地に道真は「天満天神」として祀られました。これが北野天満宮の始まりです。

現在、「学問の神様」を祀る北野天満宮には、毎年多くの受験生が訪れます。道真の怨霊に対する恐れは、やがてその詩才に対する尊敬へと変容し、「天神信仰」は誕生します。全国各地に「天神さん」を祀る天満宮・天神社があることは、その信仰の広がりを感じます。「天神さん」は、誰もが一度は手を合わせたことがある、身近な神様なのです。

加賀藩祖・前田利家は、尾張国荒子時代より天神信仰を有していたと考えられ、前田家は三代藩主・利常の頃より、その祖先は菅原道真であると名乗るようになります。北野天満宮には利常により奉納された『紺紙金字法華経開結共』が伝存するほか、道真没後八百年にあたる元禄十五年(一七〇二)には五代藩主・綱紀が太刀を奉納したのに続き、加賀藩主は五十年ごとに太刀を奉納しています。このように北野天満宮と加賀藩前田家には、深い関わりがあるのです。

本展では、道真の生涯とその没後の逸話を描いた『北野天神縁起(承久本)』(国宝)をはじめ、これら前田家が奉納した太刀(三口) いずれも重要文化財、長谷川等伯による『弁慶・昌俊図絵馬』(重要文化財)など、約百三十点(うち国宝一件・重要文化財十五件・重要美術品二件)を紹介します。

菅公と天神信仰

ここでは、道真が著した漢詩文集『菅家文章』、宇多天皇が道真を高く評価したことを記した『寛平御遺誠』(重要文化財 国立歴史民俗博物館蔵)など、道真の学者・政治家としての姿を探るとともに、後世になって誕生した「天神信仰」が、道真をどのような姿で捉えていたのか、『束帯天神像』『渡唐天神像』といった「描かれた道真像」より紹介します。

天満宮の歴史

中近世における北野天満宮の歴史を、古文書や絵画資料などを通して紹介します。室町時代には足利家の桃山時代には豊臣家の厚い崇敬と保護を得ていました。現在の社殿は豊臣秀頼によって慶長十二年(一六〇七)に造営されたものです。その際の棟札や、秀吉による北野大茶湯の様子を描いた絵画より、その歴史を振り返ります。

天神縁起

国宝『北野天神縁起(承久本)』は、現存最古の天神縁起絵巻です。通常、横へ繋ぐ料紙を縦にして繋いだため、縦五十二センチという大画面を生み出しました。本展では、幼少の道真がやがてその詩才を現す「巻第一」、大宰府への配流が決まり、自邸の紅梅に別れを告げる「巻第三」、無実を祈り天満大自在天神となつた道真が没し、京都の清涼殿に雷が落ちる「巻第五」、六道の悲惨さを描いた「巻第八」の四巻について、巻頭から巻末まで、ほぼすべてを展観します。

荘厳と奉納の品々

北野天満宮への信仰は、数々の奉納品より知ることができます。人々が願いを込めた絵馬、和歌との深い関連がうかがえる『三十六歌仙図』、「学問の神様」を慕って納められた時絵の文台や硯箱、その他、刀剣・釣灯籠・鏡など、それらは膨大な量を誇ります。

古代・中世から近世、そして現在に至るまで、人々の崇敬を集める北野天満宮。人々が「天神さん」を慕う思いは、これから先も続いていくことでしょう。



束帯天神像 狩野永納



三十六歌仙色紙貼交屏風(部分)



重要文化財 弁慶・昌俊図絵馬 長谷川等伯

個人		団体(20名以上)	
一般	1,100円	一般	900円
高・大生	800円	高・大生	600円
小・中学生	600円	小・中学生	400円

観覧料  
当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

# 近代の美術

7月26日(金)~9月10日(火)

前田家の歴代藩主のうち、特に文物の収集で実績のあった三代利常、五代綱紀は内外の歴史的な美術工芸品、書籍、典籍類を積極的に収集する一方で、自分と同時代の美術の動向にも絶えず注目していました。つまり、単に骨董的価値のみを追求してた訳ではなかったのです。こうした姿勢は、明治時代にはいつても一六代当主利為によって立派に継承されています。今回の展示には、利為自身が直接購入したものや、利為の意向を受けた仲介者が購入した作品が数多く含まれています。

この中でまず注目されるのは、西洋絵画です。今回は、ルノワールの「アネモネ」が四年ぶりに公開されますが、この作品は利為と親交があった洋画家岡見富雄の仲介によって購入されたものです。また岡見は大正五年にフランスに渡り、当時代表的な画家であったアマーン・ジャンに師事していることが機縁となつて、利為はアマーン・ジャンの作品も購入しています。今回はそのアマーン・ジャンの女性を描いた油彩画一点、パステル画二点も展示します。さらに今回はル・デュック、ロツサーノなどの作品も展示します。これらは、明治四十三年の天皇・皇后両陛下の前田家本郷邸への行幸に際して新築された洋館を装飾するために、黒田清輝らの仲介によって富山出身の画商林忠正のコレクションから選ばれたものです。この他レンブラントのエッチング「ゴルフ」(八月十七日まで展示)も是非ご覧いただきたい作品です。

日本画では、横山大観や富岡鉄齋、堂本印象などよく知られた画家の作品を展示します。いずれも小品ではありますがありますが、同時に展示する橋本雅邦や山元春峯などの西洋の影響を反映した作品とあわせて、近代日本画の展開を概観する上で貴重な指針となります。その他彫刻では、今年回顧展の開催をきっかけに再認識の気運が高まっている高村光雲の「雌雄矮鶏置物」も展示します。どうぞご期待ください。

昭和二十年、終戦を迎え、日本じゅうで民主的文化国家の建設が叫ばれました。その時期、戦災を受けず、文化的伝統を有した街でもあった金沢では、折しも疎開中の美術作家も大勢いて、混乱期であるにもかかわらず、芸術文化復興の動きが盛んとなりました。戦後間もなく、有志らによる美術館の開設がすすみ、そこで開いた現代美術展は全国的にみても、きわめて早いものでした。出品者として長谷川八十、都賀田勇馬らの地元作家の名がありますが、吉田三郎、森豊一、木村珪二といった東京在住者の名も多くみられます。

また、二十一年には金沢美術工芸専門学校が発足のちに金沢美術工芸大学となり、今日にいたっています。開設当初、教官には畝村直久、矩幸成、長谷川八十八らがつき、のちに野口嘉光、山本力吉、松田尚之らが加わりました。二十年代の卒業生には、阿倍雪子、田中昭、得能節朗、石田康夫らがあり、今日の石川の彫刻界の中心的な役割を果たしています。

一方、金沢大学教育学部では都賀田が講師を務め、のちには米林勝二が教壇に立つており、そのもとで川岸要吉、山瀬晋吾らが卒業しています。

これら日展系の作家とは別に、二科会には長谷川八十、二紀会では石彫の北川薫、乾漆の堀義雄が知られ、院展では木彫の田中太郎が活躍しました。

今回の展示では、これらの作家の作品のうちから二十年代の作品(本文中の大字)を中心に、本文で紹介した他の作家も含め、その後に制作された作品も合わせて展示し、石川彫刻の一側面をご覧いただくものです。

### 主な出品作品

若い女	阿部雪子	曙の人間像	畝村直久
朝	書間 弘	男の首	堀 義雄
座る女	森 豊一	男立像	吉田三郎

常設展示室(第4展示室)

特集

# 石川の彫刻

昭和20年代の作品から

7月26日(金)~9月10日(火)



曙の人間像 畝村直久

常設展示室

# 主な展示作品

7月26日(金)~9月10日(火)

● = 国宝      = 重要文化財  
= 石川県指定文化財



色絵椿文六角四段重 吉田屋窯



青手桜花散文平鉢 古九谷

## 前田育徳会展示室

特集 近代の美術

仁者楽山

楠公奉勅下山図

秋景

春遊図

アネモネ

富岡鉄齋

下村観山

横山大観

堂本印象

ルノワール

## 第1展示室

●色絵雄香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清

野々村仁清

## 第2展示室(古美術)

特集 古九谷・再興九谷

古九谷

青手竹葉図平鉢

色絵鶴かるた文平鉢

色絵鶺鴒草花図平鉢

色絵牡丹文平鉢

青手桜花散文平鉢

再興九谷

色絵鹿図呉須赤絵写鉢

色絵椿文六角四段重

染付鶺鴒図芙蓉手平鉢

色絵楼閣山水図蓋物

色絵石畳文古九谷写平鉢

春日山窯

吉田屋窯

若杉窯

小野窯

蓮代寺窯

## 第3・4展示室(油彩画・彫塑・造形)

油彩画

毛皮の椅子

望郷を歌う

フードの女

シヨールをまとう

コンカルノのバルコン

熱叢夢

彫塑・造形

豚

夏

朋友

円地信二

鴨居 玲

高光一也

竹沢 基

藤本東一良

宮本三郎

都賀田勇馬

得能節朗

野口嘉光

木陰の女

特集 石川の彫刻 昭和20年代の作品から

婦人の首

静かなる動き

朝

杜若

米林勝二

畝村直久

矩 幸成

書間 弘

吉田三郎

## 第5展示室(工芸)

陶芸

赤絵初夏壺

色絵壺粟大飾皿

漆工

緑葉雅趣二枚折

庭の草道沈金彫手筥

染色

服飾「盛夏果実」

麻地友禅瓜模様振袖

金工

砂張銅鑪

砂張稜線磨地水指

木竹・その他の工芸

紫檀硯匣

紫檀硯匣

彩塑人形 神事鶏祭

日本画

月下佳人

カルナツク遺跡

クメール崩壊

窓辺の静物

路地

火焰山

北出不二雄

富本憲吉

越村計三

前 大峰

金丸水明

木村雨山

初代魚住為楽

三代魚住為楽

初代池田作美

紺谷 力

梅川三省

金曾大畔

里見米菴

戸田博子

中町 進

西山英雄

コンカルノのバルコン 藤本東一良



杜若 吉田三郎



赤絵初夏壺 北出不二雄



火焰山 西山英雄



一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料	高校生以下は 無料		

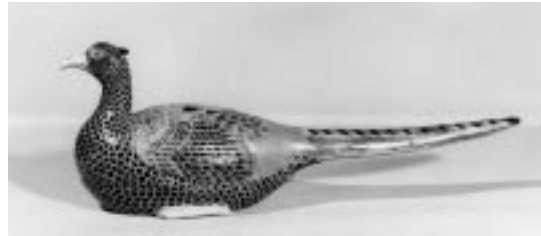
美術館小史・余話 25

嶋崎 丞 すずむ 当館館長

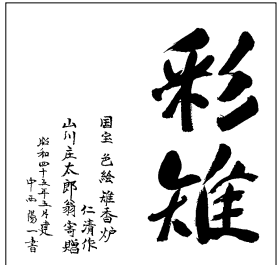
当館収蔵品の最高の名作といえ、国宝に指定されている野々村仁清作「色絵雉香炉」であり、第1展示室がこの作品のために用意されて、常設展示が行われている。この作品を鑑賞するために、県内外はもとより、海外からの来館者も絶えることがない。絵葉書の売り上げも開館以来、断然トップの座を占めている。

この雉香炉の作品を石川県（美術館）に寄附したのは故山川庄太郎さんであった。山川家は三代にわたって金沢市に住んでいた家柄町人で、三代ともども古美術品、中でも茶道具の収集家で茶人でもあった。第二次世界大戦後、三代目の庄太郎さんは、一切の職業や公職を退き、質素な生活を送って、伝来の古美術品を守っていた。昭和三十三年秋、昭和天皇が石川県へ行幸されることが決定し、また県では美術館の建設を準備中でもあったので、これら二つのことを記念して雉香炉を寄附していただけないか、ということになった。そこで寄附していただいた場合には、昭和天皇の天覧にも供するというので、県から庄太郎さんに対して打診が行われた。庄太郎さんは、私有するより公共財産として公開する機会を考えたようで、名誉なこととして快諾され、旧美術館の建設時にも専用の展示室を設置して、開館に見事な華を添えていただいた。

庄太郎さんが亡くなられてから十年目の昭和四十五年、この遺徳を顕彰する意味で旧美術館前庭に記念碑「彩雉」の碑が建立された。そして昭和五十八年の当館建設に伴い正面右側の中庭に移され、現在に至っている。彩雉の文字の揮毫は、故中西陽一前知事の手になるものである。



国宝  
色絵雉香炉  
野々村仁清



碑文



故山川庄太郎翁



「彩雉」の碑（当館正面右・中庭）

「彩雉」の碑建立

ホール

第88回ミュージアム・コンサート

「利家とまつ」を奏でる

日 時 九月二十三日（祝）午後一時三十分

NHK大河ドラマ「利家とまつ」関連事業として開催される特別展「利家とまつ加賀百万石物語」展にちなんで、ドラマのテーマをはじめ、親しみやすい名曲の数々を、オーケストラ・アンサンブル金沢メンバーによる演奏でお贈りします。

プログラム、演奏者等は次号でお知らせします。入場の際には入場整理券が必要になります。詳細は左記要項をご覧下さい。駐車スペースが少ないので、自家用車はご遠慮下さい。

- 入場整理券申し込み方法
- ・往復はがきでご応募いただき、入場整理券（招待券）を発行します。応募多数の場合は抽選いたします。
  - ・往信用はがき裏面には「第88回ミュージアムコンサート希望」と明記し、住所・氏名・年齢をお書き下さい。
  - ・返信用はがき表面には返信先（住所）をお書き下さい。
  - ・返信用はがき裏面には抽選結果を印刷しますので、何もお書きにならないで下さい。
  - ・八月三十日（金）必着です。
  - ・応募にあたってのご注意
  - ・応募、入場資格は中学生以上に限ります。
  - ・入場者一名につき、往復はがき一通でご応募下さい。お一人でも何通も出されたものや、年齢、返信先等の記載事項が不十分なもの、連名のものは無効となります。また同一の住所、筆跡で多数ご応募された場合は、当選枚数を制限させていただきます。
  - ・当日キャンセルによる空席が生じた場合は、締め切りまでにご応募いただき、抽選もれとなり、所定の手続きをとられた方に入場していただきます（詳細は当館からの返信をご覧ください）。
  - ・当館からの返信は、再発行いたしません。

応募先

〒92010963 金沢市出羽町2-1  
石川県立美術館ミュージアム・コンサート係

## 企画展示室

### 2002北陸一陽展

八月二十二日(木)～二十五日(日)

(第8・9展示室)

今秋、東京都美術館で開催される第48回一陽展への石川県・福井県在住出品者の油彩画・アクリル画・彫刻の約六十点を展覧します。一陽会は表現様式のいかに問わず多彩な作家群を擁する個性的な美術団体です。抽象と具象の多彩な作風が競合するベテラン作家の秀作から尖鋭な若手作家の力作をご鑑賞下さい。主な出品作家は、大場吉美(委員)、和泉洸、人口ふじ子、岩永勝彦、浮田正樹、酒井幸雄、佐川文子、清水正男、洲崎幸七、竹田明男、中本邦夫、野中未知子、判三教、松下絹子、安田淳(以上会員)です。

入場無料

連絡先 金沢市粟崎町二 八六 大場吉美方

一陽会 北陸支部事務所

☎〇七六 二三八 三〇九六

### 第87回公募写真展

八月二十二日(木)～二十六日(月)

(第7展示室)

東京写真研究会が主催する展覧は、研究会(関東、中部、関西、北陸の四支部)の会員と、一般公募の二部門で構成され、約二百点が展示されます。北陸から会員の部では、研展賞に村本外男、研展奨励賞に荒川廣一、公募の部では東研賞に矢木庄治、東研奨励賞に中村省三、中井としお、早川欣弥の各氏が受賞しました。

入場無料

連絡先 金沢市野町四 九 一三三

内島一郎

☎〇七六 二四一 二二七九

### 第12回北國水墨画展

八月三十日(金)～九月三日(火)

(第7・8・9展示室)

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。近年、愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査し、入選、入賞作に加えて委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

入場料 一般・大・高生 五〇〇円(四〇〇円)

中学生以下無料 ( )内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

連絡先 金沢市香林坊二 五 一 北國新聞社事業局

☎〇七六 二六〇 三五八一

## 図書閲覧室NOW

### 新着図書紹介

近年、美術や歴史、文学といったジャンルにおいて週刊で刊行されるシリーズ本がみつけられますが、今回紹介する「週刊 日本の美をめぐる 江戸3 光琳と琳派」(小学館発行)もそのひとつです。この種の本は、毎週テーマをもつて焦点を絞り、カラー図版を適所に使いながら簡潔に解説を施して、読みやすいように工夫されています。

本号は、光琳と琳派を特集していますが、ふんだんに図版を使いながら、その様式の特徴をコンパクトにまとめ、気軽に美を楽しむことができます。ちなみに本号には、華麗な装飾的表現をみせる、当館の所蔵品「色絵雄香炉」、「色絵雌雄香炉」、「古九谷青手樹木図平鉢」が掲載されています。

開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

## 月例映画会 今月のイチ押し

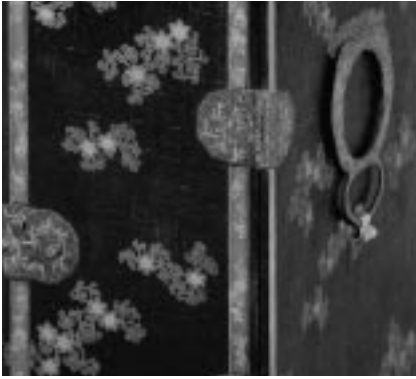
八月の月例映画会は、十一日に「北野天神縁起絵巻 道真怨霊の美」(二十三分)、十八日に「日本の肖像画 歴史上の人物たち その姿と影」(二十三分)、二十五日に「ターナー 狂気をさそう風景画家 誰も私の絵を好きになる権利はない」(二十三分)・「九谷焼」(二十二分)を上映する予定です。

このうち「北野天神縁起絵巻」は、同時期に企画展示室で開催中の『北野天満宮神宝展』にちなみ、上映するものです。この映画は、展覧会にも出陳される国宝・北野天神縁起絵巻(承久本)をモチーフとして制作され、全八巻のうち主要な場面を、絵巻の展開にそって紹介しています。前半部分は、道真が学者であった菅原是善と父子の契りを結ぶ幼少期にはじまり、才能を開化させ右大臣にまで昇格した後、藤原時平の讒言により、太宰府に左遷されるまでの生涯を、要所を押さえながら画面に映し出していきます。後半は、それまでの抒情的表現とは違って変わって、道真が死後、怨霊となつてさまざまな事件を起こしていく劇的な表現を中心にとらえています。そのあと修験者・日蔵上人が、道真の霊に関わる不思議な体験(六道地獄めぐり)をする悲惨な場面がつづき、強烈なインパクトを持って見るものに迫ってきます。このような情景を見ると、本絵巻が制作されたと思われる鎌倉時代十三世紀の、過酷な世相が反映されているようにも感じられます。

もともと絵巻の鑑賞は、一人の人間が、右手で少しずつ巻物を巻き取りながら、左手で画面を開いていくという方法で行われました。カメラもそのスタイルを意識して、ゆっくりと画面を追いながら、ところどころにアップを入れ、よこの動きと前後の動きを巧みに組み合わせ、単調な構成になるのをふせいでいるようです。また、鮮やかな色彩、精緻な線描、大胆な画面構成といった、この絵巻の見所が的確にとらえられており、展覧会とあわせてご鑑賞いただければ、より理解が深まることでしょう。



時絵鉄線唐草文歌書A笥(部分) 江戸17世紀



企画展TOPIC

「利家とまつ」

加賀百万石物語展 その四

展覧会第二部【加賀文化の確立】では、これまでに紹介しました、収集された美術工芸品とともに、加賀の地において育まれた美術工芸品も展示いたします。「秋草図屏風」(重文)をはじめとする俵屋宗雪(宗雪は、「富姫御輿入一件留書」によれば、利常の四女富姫が八条宮智忠親王に嫁する際、八条宮新御殿の襖絵を描く)の屏風絵、久隅守景の「四季耕作図屏風」(重文)等の絵画。「色絵鳳凰図平鉢」(県文)をはじめとする古九谷の優品。加賀時絵としては、「秋野時絵硯箱」(重文)等の五十嵐道甫の作品、「時絵和歌の浦図見台」(重文)等の清水九兵衛の作品。加賀象嵌鍍をはじめとする金工品を展示します。それぞれの分野ですばらしい作品を展示しますが、ここでは金具を含めた金工品を特集してみたいと思います。

「百工比照」(重文)金具類のうちから、小松城、江戸の加賀屋敷、江戸御成書院に使用されていた釘隠と引手を展示します。ちなみに虫籠・蝉の釘隠には『ニグロメ籠目彫透、縁金銀鍍金七々子、台の処金鍍金、松皮菱七宝流、足金銀鍍金七々子、底板銀鍍金、蝉金鍍金七宝流』という記事が、また、寿帯鳥・瓢箪釘隠には『花喰寿帯鳥ニグロメ打出金銀鍍金、嘴足朱漆、花銀

無垢 銅、茶鍍銚色打出、瓢花金鍍金、葉筋毛彫沈金』という記事が残されている豪華な金具が使用されていたと推察されます。

象嵌鍍は、鉄を打ち出して薄く、軽くした地に、主に銀を面や線で象嵌し、文様を表現したものです。アリを立てて(象嵌する面や線の部分の地を表面より底部を広くする)象嵌するので抜けにくいという堅牢さとその文様のすばらしさにより加賀藩の特産品として全国にもたらされました。「百工比照」金具類のうちの引手もこの技法により、金を象嵌し、鉄地の渋さと金の華やかさがうまく調和したものが残されています。また、「時絵鉄線唐草文歌書笥」や利家所用の「金子札白糸素懸威胴丸具足」(重文)の具足櫃等に取付けられ金具も鉄地に金の象嵌のすばらしいものです。

作品全体はもちろんです。視点を变えて、細部にこだわってご覧頂くというのは如何でしょうか。

(南 俊英 学芸第一課長)

各地の展覧会

八月

開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。  
 生誕100年記念 書の巨人 西川寧 7/30~8/25  
 東京国立博物館(東京都台東区)0三三三八三二一  
 出光コレクションによるサム・フランシス展 8/10~9/16  
 富山県立近代美術館(富山市)0七六 四二二 七二二  
 開館十周年記念 韓国の色と光 7/26~9/23  
 愛知県美術館(名古屋市中区)0五二 九七一 五五二  
 観音のみてら 石山寺 8/9~9/8  
 奈良国立博物館(奈良市)0七四二 一三二 七七七

次回の展覧会

企画展 利家とまつ 加賀百万石物語展  
 1 前田家と加賀文化1 (第2・7・8・9展示室)  
 加賀藩の美術工芸 (前田育徳会展示室)  
 吉田富士夫 手品師の息づかい (第3展示室)  
 第2展示室は「利家とまつ加賀百万石物語展」の第2会場となっております。  
 九月十四日(土)~十月二十七日(日)

八月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
8/3(土)	土曜講座	「国宝 北野天神縁起絵巻(承久本)」を読む (村上尚子 学芸員)	講義室
8/4(日)	CDコンサート	貴志康一 2 「ヴァイオリン協奏曲」ほか(約60分) (前田武輝 学芸専門員)	ホール
8/10(土)	土曜講座	古典文学の意匠 源氏物語 2 (前田武輝 学芸専門員)	講義室
8/11(日)	月例映画会	北野天神縁起絵巻 道真怨霊の美(23分)	ホール
8/18(日)	月例映画会	日本の肖像画 歴史上の人物たち その光と影(23分)	ホール
8/24(土)	土曜講座	型染 日本の伝統デザイン (寺川和子 学芸主任)	講義室
8/25(日)	月例映画会	ターナー 狂気をさそう風景画家 誰も私の絵を好きになる権利はない(23分)	ホール
8/31(土)	土曜講座	九谷焼(22分) ターナー 人と芸術 (織田春樹 学芸主任)	講義室

今月の全館休館日はありません。



## 砂張稜線磨地水指

三代魚住為楽 昭和12年(1937)～

昭和60年 1985

第32回日本伝統工芸展

口径21.5 底径19.9 高9.5 (cm)

砂張の平水指です。砂張(銅と錫の合金)を鑄型により成形し、表面を磨き上げ、漆を焼き付け完成させたものです。作者は、昭和三十四年の初入選以来、日本伝統工芸展に多数の水指を出品しています。形も筒形、瓢箪形、平等、地肌も無地、梨地、錠目等、加飾としては銀彩、象嵌(螺鈿)、轆轤による線彫等、多種、多様な技を駆使しています。例えば、稜線磨地水指についても、稜線を斜めにしたたり、間隔を粗くしたり密にしたりと、いろいろ工夫をこらしています。

この作品は、幅と高さの比率が程良く、安定感を感じさせる平水指で、十九本施された稜線はアクセントとなり、リズム感も感じさせ、その間隔は絶妙です。漆を焼き付けた色合いは砂張独特の味わいを醸し出しており、加飾を控えめにおさえ、簡明な美を表現しています。

作者は昭和十二年金沢市に生まれ、祖父の初代為楽に師事し、鑄物技術を習得し、砂張による水指、花入などの茶道具を制作するとともに、響銅とも呼ばれる砂張による銅鑼、鈴の制作を行っています。本年、銅鑼(盆状をした金属製の打楽器で、中央に乳房形の「へん」と称する突起のあるものとなないもの等形状は様々で、大きさも厚さもいろいろあり、吊り下げて、その中央を桴で打って鳴らすもの。音色や余韻は形や大小によりそれぞれ異なる。仏事用、軍陣用、出船の合図用として使用されてきたが、次第に茶事用に使われるようになり、形、音色ともに洗練されてきた。)で重要無形文化財保持者に認定されました。

## ミュージアムショップ通信

立秋。厳しい残暑の中、肌ふと涼しさが感じられる頃、なのですが…。

さて、大河ドラマ「利家とまつ」にも登場している利家の長男利勝(後の二代藩主利長)の菩提寺が、富山県高岡市にあるのをご存じですか?。ほら、何年前かに国宝に指定された…、そう、あれです、瑞龍寺!。利長は弟の利常に藩主の座を譲ってから高岡城に隠居しました。そして、利常が兄の菩提を弔うために建てたのが瑞龍寺(曹洞宗)なのです。ここには命日記にとに寄進された書跡、絵画、工芸品などがたくさん伝えられていて、今やそれらの多くは国や県の指定文化財です。美術館ではこれらを中心に、して「瑞龍寺展」を盛大に開催しているんですよ、五年前に。歴史ファンが大挙して押し寄せた、あの時のにぎわいといったら、もう…でも見逃してしまっただ方には、幸い当時の展覧会図録が残っています。全百四十四ページでカラー図版だけでも約百ページ!。もちろん詳しい解説付き。「利家とまつ 加賀百万石物語展」開催前の今のうちに、ぜひどうぞ。



『瑞龍寺展』(2,300円)

### 休館日

今月はありません。

### 石川県立美術館だより

第一二二六号 平成十四年八月一日発行

〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三三)七五八〇

FAX 〇七六(一三四)九五五〇